

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	中央自動車道騒音測定事業	会計	一般会計	事業No.	328	施策順No.	53-002	
		事業種別	政策・その他	予算科目	4-1-5-12-1			
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	環境課			
施策	53 環境汚染の防止			事業期間	開始	22	終了	22

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	中央道沿線居住者の生活環境						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		中央道沿線の騒音対策要望数(箇所)			19	19	19	
	意図	騒音量把握による環境騒音の被害防止						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	中央道沿線の騒音測定数(環境計量士による測定箇所)				19	19		B
	遮音壁の新規設置数(箇所)	2	1	0	2	1	2	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	遮音壁設置要望の根拠として、環境計量士が測定したデータを用いないと中央道の沿線市町村が組織する協議会での優先順位に影響し、今後の防音壁等の設置に支障をきたすことになる。今後においても、数年に一度程度の測定事業を委託していくことが必要である。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	中央自動車道沿線の県内市町村で構成される「中央道環境対策協議会」では、傘下自治体からの騒音等環境被害防止に関する要望を毎年取りまとめ、中日本高速道路株式会社に対して改善要望活動を実施している。騒音被害については、騒音規制法の規定に基づく騒音量(等価騒音レベル)の基準値が一定の判断基準となっている。協議会では自治体間のバランスや騒音レベルの高い箇所からの順位付けにより、中日本高速道路株式会社に対して要望を行っている。この騒音量を比較する資料としては、測定結果に客観的な信頼性のある環境計量士を要する検査機関のデータが必要である。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	中央自動車道に関する環境騒音の防止、低減を図るための防音壁設置 1 中央自動車道沿線の各まちづくり委員会からの要望受付 2 要望箇所の騒音測定実施 3 従前からの要望未実現箇所を考慮して要望箇所の整理 4 中央道環境対策協議会へ調査書提出	1 要望受付件数 2 測定件数	1 19カ所 2 14カ所
23年度実施計画	中央自動車道に関する環境騒音の防止、低減を図るための防音壁設置 1 中央自動車道沿線の各まちづくり委員会からの要望受付 2 要望箇所の騒音測定実施 3 従前からの要望未実現箇所を考慮して要望箇所の整理 4 中央道環境対策協議会へ調査書提出	1 要望受付件数 2 測定件数	

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		970	811	0		
計(A)		970	811	0		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			811			

4 事業に対する市民や議会の意見

中央自動車道沿線のまちづくり委員会や沿線の居住者から、防音壁未設置の箇所について早期設置の要望がある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	環境基準が守られている	施策の成果指標又はムトス指標	飯田市が定める環境目標の達成率(騒音) 環境汚染に関する苦情件数
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	中央道沿線住民の騒音被害を軽減するため、座光地区に防音壁が設置された。		
	後期に向けた課題	数年おきに騒音測定を検査機関に委託して実施する必要あり。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	騒音測定を民間の検査機関に委託し、検査データの信憑性を高めた。他の市町村では大多数が民間の検査機関に測定を委託し、信頼性の高い説得力の高い騒音データを提出している。		
	後期に向けた課題	騒音測定民間委託の定常化 地域の強い要望に対しては、測定を毎年行う形で応えていかないと、市の立場がなくなってしまう。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	騒音計が老朽化し機能が不完全になっているが、新たに高額な騒音計を購入するのではなく、民間の検査機関に検査を委託しコスト削減を図った。		
	後期に向けた課題	測定の民間機関への委託の促進		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	受益者負担は発生していない		
	後期に向けた課題	沿線の住民の要望は年々多様化している。それに応えることが予算的に不可能に近いものがある。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	主体は市環境課である。地域自治振興センター経由で地域の要望を出してもらい、中央道環境対策協議会経由で要望を提出している。		
	後期に向けた課題	中央道の騒音以外の面での中央道に対する苦情が多発している。その対応が困難である。		
全体を通じて	4年間の振り返り	中央道の近くは不動産価格が安い。それにつられて住み着くようになった人達が、数年後には苦情を申し立てるようになる。		
	後期に向けた課題	住民の勝手にわがままな苦情にどう対応しているか苦慮している。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------